

東京武蔵野多摩ワイズメンズクラブ

2015年11月号《No.5》

東京YMCA西東京センター内 〒186-0002 東京都国立市東1-20-102

TEL 042-577-6181/FAX 042-577-5574

今月の聖句

イエスは言われた「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らねばだれも父のもとに行くことができない。

ヨハネによる福音書14章6節

主題

国際会長	Wichian Boonmapajorn	「信念のあるミッション」
アジア地区会長	Edward K. W. Ong	「愛をもって奉仕をしよう」
東日本区理事	渡邊 隆	「原点に立って、未来へステップ」
あずさ部長	標 克明	「ワイズメンとして一歩前進」
武蔵野多摩会長	宮内 友弥	「共に学びあい、活かされる社会を目指して」

ワイズメンズクラブモットー

強い義務感をもとう 義務は全ての権利に伴う

五つの誓い

1. 自分を愛するように隣人を愛そう
1. 青少年のためにYMCAにつくそう
1. 世界的視野を持って国際親善をはかろう
1. 義務を果たしてこそ権利が生ずることをさとう
1. 出席第一と奉仕第一とを旨としよう

ワイズメンズクラブの目的

1. 個人的にもまたクラブとしても、その奉仕活動を通じてYMCAの活動を支援する。
2. ワイズメンにふさわしい他の団体を支援する。
3. 地域社会や国際的な問題に関心を持ち、一党一派に偏らない正義を追求する。
4. 宗教・社会・経済・国際などの諸問題について会員達を啓発し、積極的に参加させる。
5. 健全な交友関係を作り出す。
6. この協会の国際・地域・区の事業を支援する。

10月の出席率91% 在籍者11名 出席者10名 ゲスト7名

リーダー達の顔を思い浮かべながら

ブリテン 渡邊 大輔

9月の例会は台風直撃の予報から中止となった。

1カ月ぶりの例会は、東京八王子クラブとの合同開催のボランティアリーダー感謝会。

今年は、西東京センター夏のプログラム、ユースボランティアリーダーズフォーラム、

全国リーダー研修会に参加したリーダーの人達に参加いただき各プログラムの報告を聞きました。のちに懇親会をひかえていることもあり、報告時間は15分としていたにも関わらず聞いている私たちも熱いリーダーたちの報告に時を忘れ4人の報告を終えたときには80分が経過しておりました。

懇親会も大いに盛り上がり、気が付けば終電の時間と言うことでお開きとなりました。

懇親会の最中に感じたことは、年に数回しか交流のないワイズとリーダー間には打ち解けられず、一定の距離を感じました。

ワイズの中には西東京センターや、ボランティアリーダーたちが普段どんな活動をしているのか知らない人も多いのではないかと。逆にボランティアリーダーはワイズが何をやっているか知らない人が多い。(前に話したリーダーは多くのワイズがYMCAで働いていると錯覚していた程でした。)

西東京センターで言えば、10月の初めにフェスティバル(夏キャンプの思い出会)や、12月にはクリスマス会があります。そういった機会にもっと積極的に参加し、またYMCAと協働できることを模索していき距離を少しでも距離を縮められればいいなと思います。

10月リーダー活動発表・八王子クラブ合同例会の様子

日時 10月14日19時 会場 西東京センター

司会 渡邊ワイズ 聖書・祈祷 伊佐ワイズ 受付 野尻・松田ワイズ 八王子クラブ 6名

ゲスト ミエテック マリア・オコルスキー夫妻 ワルシャワクラブ 長津サンライズクラブ会長

発表 甲斐 光彦(えんがわ) 多賀井 裕聡(どき) 副島 麻衣子(トンカチ) 中村 有里(こりん)

毎年伝える事により強くなってゆくリーダー達の思いが今年はより強くガンガン伝わる発表だった。

副島麻衣子(トンカチ) 大学4年生今年はリーダー最締めくくりの年、二つのキャンプに参加しました。

戸隠4泊5日1年生から5年生までハイキングキャンプでグループリーダーは2回目です。

のんびり気分で地図を頼りの自然をより深く感じる事がテーマでしたが、子供たちから私を、私から子供たちを見つめあう愛憎紙一重ぶつけ合いキャンプでした。最後のキャンプファイヤーでは子供たちの前で涙を見せることは良くないと知っていますが感じ取ってくれる子供もいることが分りました。

山中湖キャンプでの知的障害者亀の子キャンプではプログラムリーダーをしました。場所・人の変化になかなか合わせる事が出来ない亀の子では1対1のサポートが必要ですがリーダーの数が足りず1対2に成るなど四苦八苦でしたが。去年は出来なかった湖畔を船着場まで皆と歩いたり、いつの間にかキャンプに参加していたりそれを優しく見つめるメンバーたち立ちの新しい顔を発見しました。

影で支える地味なリーダーや多くの人に教えまくられたリーダー生活でした。

多賀井 裕聡(どき) 4月からの新人リーダーです。高校まで部活三昧、バスケット以外何もしていません。リーダーになって思い出したのは子供時代のキラキラした時間です、今!子供たちといっしょになって大急ぎで少年時代を追体験できた喜びを味わっています。

最初はつるじんの工作三日間のデイキャンプでした、初日は一ツ橋大学に入ってフォトフレーム作りの材料集めをし二日目から作り始めました。鶴人が話し始めると子供たちは私のアドバイスも邪魔なくらい食い入るように聞いています。教えられる毎日が始まりました。一人浮いていた発達障害の児が私に話しかけ意志を伝え始め信頼かどうかは分からないが内面の変化を感じました。

豊かな自然の道志村グリーンキャンプ、リーダー会の事と対応方、子供たちとの共感から生まれる新しい遊びのアイデア、今日は最高に楽しかったと子供たちの目の耀きは私の自信につながりました。

発達障害児の山中湖キャンプでは最期に別のリーダーにどきがいちばん好きなリーダーだと言ってくれたそうです。私を成長させてくれる子供たちを預けるおやごさんやワイズの支援に感謝します。

甲斐 光彦(えんがわ) 経験1年間戦後のリーダー対象のユースボランティアスフォーラムに参加しました、テーマは一貫して「今リーダーに求められていること」です2泊3日カウンセラー一人リーダー5~6人のチーム6個ノグループで語り合いました。基調講演で特に響いたのは伝える事と伝わることの違いを経験具体的

に話されたことです。この三日間は「伝わる伝え方」に凝縮されたと思います。

初対面のほぐしにカウンセラーの提案で自分の人生を変えるような出来事話しながらグラフのカーブで表現しました。まずカウンセラーのあけすけな話で皆もそれが出来、初対面相手の理解の第一歩が出来ました。リーダーに求められるもの。自分がリーダーのときとそうでないときでは少し違うスイッチがあるのではないから始まり・理想のリーダー像・伝えるときに大事なこと・気付と環境と読み・魅力・子供の視線等々をポストイットに書き黒板に張りKJ方などで、時間を忘れて探し求めました。

結論はリーダーが一人ひとり得意不得意があるように違う。安易に先輩のアドバイスに頼っていたのではないからまず答えが出ていないリーダー同志で考え、そして自己分析してから先に進もう。

最期にグループ一人ひとりの良いところを発見し寄せ書きを交換して解散しました。

中村 有利(こりん)9月19~22日名古屋で行われた全国リーダー研修会に参加しました。一口でいうとラーニングバイドウィング。4人の方の基調講演で自然のなかではわがままはとどかない。子供たちとどう関わるか。リーダーの自分の価値観を押し付けない。子供たちに自分で考える力を与える。など語られましたがリーダーは汗して考えてそしてつかめ、ということだったと思います。初日から5~6人12チームは四苦八苦し夫々のテントを張りキャンプ基地を作りました。夕食は現地の先輩方が名古屋の味を楽しませてくださり朝食は自分たちで作りなさいという事でした。翌日はOBの建築家の指導でツリーハウス作り、綱で丸太をつなぐ事から始まり丈夫なハウスを作り上げました。その後はリーダー夫々普段の役割、野外活動・障害児・学童・スポーツと別れサポーターなしで自分たちでキャンプスタンダードを作ろうとデスクッションをしました、共通したことは何を大切にするか。リーダー同士連携して子供たちにチャレンジする環境を作ろうでした。

エスカレーターにて思うこと

会 計 山 口 直 樹

最近よく大阪へ行くことがある。大阪ではエスカレーターでは東京と逆で、右側が立ち止り左側が歩くコースになっている。と思っていたが、新大阪駅では関東からの人が多いこともあり、必ずしもしっかりと守られていず、左側に立って乗っている人も良く見かける。私も戸惑って左側に立ってしまい、妻に注意されることもよくある。

また、先日のアジア大会の時には京都に行ったが、京都はばらばらでどちら立つのか戸惑ってしまった。エスカレーターごとに違っているような気がした。京都の友人に聞いたところ、京都は適当だから前の人に從っているとのこと。どこまで本当だか不明。

でもどちらでも私が少ない経験で感じたことは、間違っただけでもそれをぎすぎすと咎める場面はほとんど見かけないのだ。東京では、まるですごく悪いことをしているように後ろの人にせつつかれたり舌打ちされたりしたことがある。何か違いを感じ、東京よりも大阪のほうが暖かく感じられたのはなんだろうか。

先日名古屋へ行った。名古屋駅から地下鉄に乗っただけであったが、エスカレーターは歩かず、立ち止まって乗るよとの掲示が大きく出ていた。ちょっとびっくり。実際に歩いている人は、誰もいなかった。

そういえば、エスカレーターでの事故も時々あり、東京でもよく見ると歩かないよとの掲示も見かけるようになってきた。実際、エスカレーターは立ち止まって乗るような設計になっていると聞いたこともある。これから、歩かないようになっていくのであろうか。

おろそかの源！

ブリテン 松田 啓

自分の考えが追いつかないほど事件事故が立て続けに起きている。報道は木鐸をおろそかにしてはいないか。もう忘れかけられている記録的豪雨での鬼怒川決壊、へりの救助活動や電柱にしがみついて救助を待つ姿は繰り返し繰り返し報道された。当日気象庁は午前7時45分に大雨の特別警報を出し、NHKも鬼怒川が危険な

状態です非難してください非難してくださいと繰り返しアナウンスしていた。

おや！と思った。その時の繰り返し写し出される映像は同じ画面の使い回し。そのシーンを見た視聴者は時間がたっても変化無し、避難しようとは思はない。視覚の刺激は聴覚の刺激より強い。この報道カメラは外注だと思った。報道マンの伝えねば成らないというプライドが全く無い、刻々と増える水嵩を伝えないドローンだって有るだろう。非常にいらだつ自分を俯瞰すると自分も同じではないか、外注ワイズメンになってしまっていないか。年を重ねるほどそうなり易い頭を抱え込んだ。

<東京 YMCA 便り>

村山 達哉

西東京センターでは10月に様々なイベントが催されました。10月2日(日)には恒例の「西東京フェスティバル」を実施し、サマープログラム、定例活動の参加者とそのご家族、ボランティアリーダー、スタッフを合わせて約100名が高尾の森わくわくビレッジに集い、賑やかな1日を過ごしました。リーダーが準備した様々なゲームやクラフト、餃子作りなど、それぞれの場所で、親子一緒に楽しむ姿が見られました。一日の最後には参加者全員で一つの火を囲んでキャンプファイヤーを行い、歌や踊りを楽しみました。YMCAで行われているプログラムを、保護者も一緒に体験し、リーダーが子どもと関わる姿を見ることで、YMCAについてより知って頂ける機会となったと感じています。

また10月14日(水)には「リーダー感謝会」が開催されました。ワイズメンズクラブ、ボランティアリーダー・スタッフ、その他多くのゲストを交え、リーダーからのキャンプや研修の報告を聞き、その後は食事を取りながら交流する機会となりました。普段なかなか顔を合わせる事のない方々同士での交流が見られ、皆様にリーダーたちの普段の活動の様子や、喜びや悩みを知っていただくだけでなく、この夏の体験を振り返り、それを伝えようとする事で、リーダーたちにとっても大変実りある時間でありました。いつもお支えいただいていることに感謝いたしますとともに、これからも変わらぬご支援をお願いいたします。年末年始に実施予定のウィンタープログラムの準備も本格的に始まってまいりました。良き準備が出来ますよう、お祈りください。

<西東京センター及び東京 YMCA の主な予定>

- 11/3 ペタペタの会
西東京センター会員の集い
- 11/8 発達障がい児 グループ活動「Smile(小学生)」11月例会
- 11/10 座学リーダートレーニング(スキー指導法)
- 11/15 幼児野外活動「にこにこ」11月例会
小学生野外活動「ロビンソン」11月例会
国際協力募金(例会後、国立駅にて)
知的障がい児・者 余暇活動「シャベルズ・いずみの会」11月例会
- 11/20-23 こひつじキャンプ
- 11/23 中高生グループ活動「TeenS」11月例会
- 11/28-29 知的障がい児・者 余暇活動「あおぞら・つばさの会」11月例会(1泊会)
- 11/29 発達障がい児 グループ活動「Smile(中高生)」11月例会

11月のハッピーバースデー 山本 広ワイズ(1939・11・26)

今月の卓話 (ガテマラのマリンバ) ガテマラ・マヤ文化協会理事 板村 哲也氏

シロホンとは発祥が異なるようですね、似て非なるもの楽しみです。

司会 石丸ワイズ 聖書・祈祷 小坂メネット 受付 漬水・渡邊ワイズ